



高宮神奈備祭



宗 像

11月祭事暦

- 1日 月次祭
午前10時～
高宮祭
第二宮・第三宮祭
宗像護国神社
月命日祭
- 午前11時～
総社祭
浦安舞奉奏
- 3日 明治祭
午前11時～
- 15日 月次祭 併
七五三祭
午前10時～
総社祭・高宮祭
第二宮・第三宮祭
- 23日 新嘗祭
午前11時～
豊栄舞奉奏

一年に一度の再会・御神威新たに

秋季大祭齋行

好天に恵まれ三日間で約16万人が参拝

連日秋晴れの好天のなか齋行された本年の秋季大祭、昨年約三十年振りに再興された神湊市街地の陸上神幸は、本年より社会科学習の一環として玄海小・中学校の生徒も奉仕、神湊渡船のターミナルもみあれ祭当日に新たに開業するなどし、平日にもかかわらず、三日間で約十六万人の参拝者で連日賑わいをみせた。

十月(日)

みあれ祭(海上・陸上神幸)
主墓地方風俗舞 奉奏

午前八時半、大島で中津宮出御祭を齋行。沖津宮と中津宮の御神璽を神輿に奉安、大島小学校鼓笛隊先導のもと大島港まで陸上神幸が行われ、沖・中両宮の神輿を御座船にお載せした。



中津宮出御

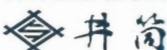
余の滴

登龍門という言葉がある。龍は、十二支の中で唯一伝説上の動物だが、鯉が滝を登りきる事により龍と化すという。それ故にこれを登龍門とし、鯉の滝登りともいわれ、節句の鯉幟もこれに由来する。転じて登龍門は、乗り越えなければならぬ試験を指す▼辰年の今年も残すところあと二ヶ月であるが、尖閣・竹島の領土問題に大きく揺れた年との印象が大きい。この領土問題の正義は我に有りというのは国民の一致した認識であると思う。故に国際司法裁判所への提訴に彼の国々は応じぬのである▼しかしながら、戦後一貫して流れる「穏便に」とか「平和裡に」という対応に終始してきた事により、我が国は国際社会の中で侮られ続けてきたのも事実である。その解決には、時機を得て一歩前に踏み出さねばならぬのも自明である▼日本列島は、その形状から龍と称せられる事もある。その姿を欠けさせて亡国の道を歩むも、真の龍たらんと国家のその強き意志を示すも、この「登龍門」という言葉に帰結する。(佐)



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

神具・装束・授与品



装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市福元4丁目20 電話(0940)32-2567



【みあれ祭】海上神幸

午前九時二〇分、大島港を出港。港外には波切御幣・紅白吹流し(御手長)、大漁旗で飾られた約一五〇隻の漁船が待機しており二隻の御座船が続いた。

一方、総社・辺津宮では午前九時に御祭を齋行、辺津宮の御神璽が神湊港に向われた。前日まで台風十七号の接近で、みあれ祭(海上神幸)の齋行が危ぶまれ、当日はその影響でうねりが残り波立上がったが、その中大船団が波しぶきを上げながら進む様子は、例年にも増して勇壮であった。

二隻の御座船は神湊港沖合で停船。約一五〇隻の奉仕船は、御座船を周回し宗像七浦の各母港へそれぞれ帰還の途についてた。

それを見送った御座船は辺津宮の神輿が待つ神湊港に入港、三基の神輿は神湊の高台にある頓宮へ参進、頓宮祭が齋行され、祭典後には御座船状贈呈式が執



大島小学校鼓笛隊の先導により大島港へ

り行われ、奉仕者に対し参列者より大きな拍手が起った。

頓宮からは神湊市街地を陸上神幸、地元氏子住民の外、玄海中学校男子生徒が神輿の内その一基を担い、同女子生徒は巫女装束にて後従を奉仕、同小学校の児童も稚児装束にて紅白吹流し(御手長)を捧持、また法被姿にて提灯行列を組むなどして御神幸に加わり、古雅な姿の御神幸が神湊で再現された。

神湊便局前の御駐輦所で御神璽は御座車に移され、白バイ・消防車に先導されて総社・辺津宮本殿へ入御された。



国旗と大漁旗はためく大島港

入御を終えると秋季大祭一日祭(入御祭)が齋行され、高向宮司の祝詞奏上に続いて、保存会奉仕による主基地方風俗舞が厳かに奉奏され、恙無く祭典は終了した。

十月二日

流鏝馬神事、翁舞奉奏

午前八時から神門前の馬場道で流鏝馬神事の奉納が行われ、馬上の射手が地上七尺の的に向け、次々と矢を射ると参拝者から盛んな拍手が起こっていた。

午前十一時には一日祭が、福岡県神社庁宗像支部の神



頓宮から辺津宮へ徒歩による陸上神幸



頓宮祭

職奉幣使、宮地嶽神社献幣使、氏子奉幣使にも参向いただき齋行された。祭典では喜多流能楽師・梅津忠弘師同社中の奉仕により、能管や鼓の鳴りに合わせ、能楽「翁舞」が神前に奉奏された。

十月三日

浦安舞奉奏

午前十一時より三日祭が齋行され、地元玄海中学校の女



主基地方風俗舞

生徒徒四名による浦安舞が奉納され、十二単を身に纏った舞姫の姿は詰めかけた多くの参拝者を魅了した。終了後、引き続き続いて奉仕神職が高宮・第二宮・第三宮・宗像護国神社の各祭場へ別れ、秋祭りを齋行した。

また午後六時には、高宮神奈備祭が高向宮司以下神職・巫女、氏子青年会外の奉仕の下齋行され、浄間の祭場で「悠久舞」が奉奏されると参列者一同感動の様子であった。この高宮神奈備祭で三日間に亘る秋季大祭は無事に締め括られた。ここに秋季大祭に御奉仕頂いた方々に厚く御礼を申し上げます。



高宮神奈備祭

氏子奉幣使 福嶋光氏



流綱馬神事



賑わう境内

秋季大祭奉仕者は次の通り (敬称略)

宗像大社氏子会

◎海上神幸奉仕

◆沖津宮御座船 第十新幸丸 (鐘崎) 船長・権田展康

◆中津宮御座船 第二大福丸 (大島) 船長・古賀健二

◆沖津宮先導船 健栄丸 (神湊) 船長・三吉健二

◆中津宮先導船 東丸 (地ノ島) 船長・奥 正彦

◆花火船 信洋丸 (大島) 船長・宮本敏喜

◆報道船 みたけ (大島) 船長・遠藤英樹

右を始め海洋神事奉賛会 (会長・権田仁八郎) 参画の宗像漁協・鐘崎漁協等所属の漁協組合員の皆様

◎陸上神幸奉仕

◆御座車 西久大運輸倉庫(株)・(株)新出光 宗像地区タクシー協会 宗像観光協会

◆先導車 宗像観光協会 宗像地区交通安全協会 宗像市消防団第十一分団

◆供奉車 宗像市消防団第十二分団 玄海ホテル旅館組合

◆大島鼓笛隊奉仕 大島小学校児童

◆御長手棒持・提灯行列 玄海小学校児童

◆陸上神幸実行委員会 玄海地区コミュニティ運営協議会 津加計志神社総代 宗像観光協会

宗像・沖ノ島世界遺産市民の会 宗像市 宗像大社氏子青年会

◎主基地方風俗舞奉仕 (舞方) 中野久志、清水陽介 松井徳一郎、松井稔

(歌方) 石津典秀、永島卓也 菊本兼二、吉田光年 森勝紀

◎氏子奉幣使 福嶋 光

◎流綱馬奉仕 宮木貞彦師以下同門中

◎浦安舞奉仕 玄海中学校三年生 磯辺かえで、田中佐季

◎翁舞奉仕 三古愛海、中村あやみ

◎南坊流献茶奉仕 喜多流能楽師 梅津忠弘 同門中

◎高宮神奈備祭奉仕 二代洗心庵 瀧口宗芳 同門中

宗像大社氏子青年会

第42回 神郡に秋の彩り 西日本菊花大会開幕

今年も神郡宗像に菊の季節が到来しました。第四十二回西日本菊花大会(宗像大社菊花会、宗像観光協会共催)が十一月一日に開幕し、境内は多くの菊花で彩られています。

この菊花展は、質・量ともに全国屈指の規模を誇り、愛好家が丹精込めて育てた、大輪・盆栽・懸崖・福助・ダルマ作

り・古木添え木・洋菊・千輪咲き・一文字作り・菊人形と様々な種類の菊約三千鉢が出品されております。

期間中は観菊者、七五三詣での家族連れ等で大いに賑わい、境内では「菊みくじ」、「喫茶コーナー」(勅使館)が開かれ、また菊苗・菊鉢、地域の特産品や軽食の販売も行っております。何かご不明な点がございましたら、緑のジャンパーを着た宗像大社菊花会々員にお気軽にお声掛け下さい。

尚、今年の開催期間は**十一月一日～二十二日**となっておりますので是非御参拝下さい。



七五三・観菊者で賑わう昨年の境内模様



献茶祭齋行

表千家々元奉仕

道を志す方々にとって、家元の御手前を間近で拝せる待望の神事である。

当日は、生憎の空模様となったが、早朝より県内はもとより山口・九州各県の同門会々員をはじめ茶道に勤しむ方々が続々と参集し、境内は和服姿の女性達で華やかな雰囲気になりました。

定刻十一時、一鼓を合図に奉仕神職、表千家家元家元而妙齋千宗左宗匠、出光興産株式会社出光昭介名誉会長、表千家同門会福岡県支部西高辻信良支部長(太宰府天満宮宮司・福岡県神社庁長)他関係者は、祓舎にて修祓の後本殿へと参進、それぞれ所定の座に着座し、祭典が齋行された。

この献茶祭は、昭和三十七年、当時の宗像大社復興期成会々長、出光興産創業者、出光佐三氏の御尽力より始まり、毎年表千家家元直々の御奉仕により齋行されている。茶の



而妙齋 千宗左 宗匠

かたずをのみ真剣なまなざしで見守った。

しばし静寂の後、点てられた濃茶、薄茶の二服が雅楽の調べが流れる中、神職の手により御神前に奉献された。献茶の儀の後、齋主、家元、出光名誉会長、西高辻支部長が玉串拝礼を行い、約一時間の祭典は厳肅裡に滞りなく終了した。

献茶祭終了後、参列者は副席が催される儀式殿の出光席、齋館の同門会席へ参席され、茶席に掲げられた掛軸や茶道具の逸品を鑑賞しながら茶の湯の醍醐味に浸った。



平成24年度 福岡県神社庁 神宮大麻曆頒布始祭

九月二十六日、福岡市箱崎浜にある福岡県神社庁で、今年度の伊勢神宮のお札である「神宮大麻」と、同庁発行の「曆」の頒布始祭が斎行され、神宮より亀田幸弘禰宜、西高辻信良福岡県神社庁長(太宰

府天満宮宮司)をはじめ関係者、当大社からは高向宮司以下神職、総代が参列、奉仕員としても神職と巫女も出向し厳肅裡に斎行された。
神宮(伊勢神宮)は皇室の御祖先神である天照大神をお祀りし、国民の総氏神でもあるお宮。年末にむけて新しい大麻の頒布が始まる旨の祭典を、九月十七日にまず神宮で斎行され、その後各県の神社庁にお札が到着すると各県単位で祭典が執り行われる。



当日は県内各地より神職や総代約二八〇名が参列、当大社の巫女二名も緊張する面持ちではあったが、優雅



当社巫女が浦安舞を奉奏

に浦安舞を奉奏、多くの参列者を魅了した。

その後も各支部ごとに頒布始祭が斎行され、宗像支部では十月十二日に斎行されている。

さらに、宗像地域の総氏神でもある当大社のお札の頒布を開始する宗像大社神符頒布始祭が今月の十九日に斎行されると、いよいよ師走。

本年も新たに奉製された清々しい神宮大麻と宗像大社神符をご家庭に奉斎いただき、新年をお迎えいただければと存じます。

主基地方風俗舞 20年振りに高良大社にて奉納

去る十月十日、宗像大社より事務局並びに主基地方風俗舞保存会々員総勢十八名が出向し、高良大社(久留米市鎮座)御神前にて主基地方風俗舞を奉納した。

同社では十月九、十二日迄、高良くんちと呼ばれる例大祭が斎行され、当日はこの二日目、多くの崇敬者が参集、当社高向宮司も参列するなか風俗舞が奉奏されると、その荘厳な姿に見入っていた。

主基地方風俗舞の舞歌に

高良山(参入の歌)

ちはやぶる

高良の山の 神籠石

かけずくづれじ

御代に ならいて

という和歌がある由縁から、同社より依頼があり奉納する運びとなった。じつは平成四年にも同社にて奉納しており、当時を知る奉仕者は懐かしむように二十年前の思い出なども語ってくれた。



奉納終了の会員等

書籍紹介

出光興産創業者

出光佐三の壮絶な生涯を描いた

『海賊とよばれた男』(上・下)

(百田尚樹・著/講談社)

すでにご存じの方も多かと思いますが、宗像市赤間出身で、昭和の大造管など当社に多大なるご尽力をいただいた、出光興産の創業者である出光佐三氏をモデルにした小説、『海賊とよばれた男』(上・下)が講談社より刊行されました。

本書は、『大家族主義』『人間尊重』を経営理念に掲げ、終戦後、社の存続自体が危ぶまれるような状況下でも、一人の誠首もせず、人の力を信じ会社を再興したこと、さらには日本再建のために、欧米の巨大石油会社、大英帝国を相手に堂々と渡り

百田尚樹

海賊とよばれた男



百田尚樹

海賊とよばれた男



合い、世界をあつと言わせた日章丸事件など： 出光佐三氏の九十五年に亘る壮絶な生涯を事実に基づいて描いた、本格的歴史経済小説です。

氏の強烈すぎる人生に引き込まれ、こんな日本人がいたのかと、魂の奮える衝撃の本でした。是非ご一読をお勧めします。

定価1,680円

建築家 池田武邦氏参拝

十月十三・四日にかけて建築家・池田武邦氏ら六名が宗像三宮に参拝された。

池田氏は一九二四年生まれの88歳、海軍士官として日本海軍最後の巡洋艦「矢矧」に乗り、沖縄特攻にも参加、戦後、日本で最初の超高層ビルである霞が関ビルを始め、日本の高層建築の第一人者として活躍されてきた。

一行はまず、総社・辺津宮を

参拝、高宮祭場や神宝館を拝観された。午後からは大島へ渡島し、中津宮を参拝、御嶽神社、沖津宮遥拝所など島内を周遊した。

翌日は晴天、沖ノ島への渡島が叶い沖津宮を参拝、普段は訪れることの出来ない禁制の島に一同、感嘆の様子であった。

御参拝頂きました皆様、今後益々のご健勝をお祈り申し上げます。



中津宮拜殿前にて (池田氏は写真中央、神職横)

七五三詣のご案内

宗像大神様に生を受けてから今日まで無事に成長出来たことを感謝し将来のご加護を祈願する人生儀礼です。



- ◆年齢 3歳の男女児、5歳の男児、7歳の女児
- ◆期間 11月末迄
- ◆初穂料 1人 5,000円
- ◆授与品 御守、御幣、千歳飴 ほか

第39回「秋季奉納盆栽展」のご案内



- ◆会期 11月10日(土)～13日(火)まで
- ◆時間 午前8時30分～午後5時
- ◆会場 宗像大社本殿横
- ◆拝観料 無料

(続)

浜の奇物

272

いしただし



戦艦大和が四月七日十四時
二三分に沈没、護衛艦も軽巡
矢矧、駆逐艦四艦が撃沈され
た。しかし涼月、冬月等四艦
が帰還した。

阿部三郎の「特攻大和艦隊」
(光人社)では、大和と九艦の
戦いぶりが克明に描かれてい



大和ミュージアム

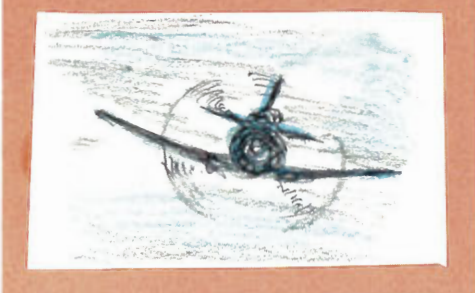


男たちの大和・セゾ

る。その奇跡の生還をした涼
月は「奇跡！不屈の闘魂が後
進で帰投、間一髪で着底」を引
用してみよう。戦い終わって艦
の損傷激しく人間でいえば瀕
死の重傷である。艦は渾身の
力をふりしぼって帰ってきた。
速力は九ノット、機関長は
艦が佐世保に帰投するまで、
いつエンジンが故障するか一
瞬も気が許せなかった(それ
と共に米軍機、潜水艦攻撃

も恐れた)不安な一夜が明けは
じめ、九州の山々が薄墨色に
見えてきた。夜も明けるにつ
れて一睡もしていない乗組員
は、軍歌を合唱して元気をつ
け、それぞれの持ち場を死守
した。食事は飯など炊く余裕
もないので、乾パンをかじり、
副食として角砂糖を見つけて
配給し、大いに喜ばれた(中略)
佐世保の湾外で、駆逐艦が迎
えに来た。「ワレ、貴艦ノ側方
ヲ護衛ス」との信号を見た時
に、やっと「助かった」という実
感が湧いてきた。

午後二時すぎ佐世保の湾に
入り始めた。鎮守府の建物が
見え、続いて裏山の桜が見え
てきたときには、後部指揮所
にいた全員が泣いた。爆煙と
重油まじりの水柱を被って真っ
黒になり、敗戦兵のような恰
好をした全員がただ涙を流し
た(中略)とにかく皆が泣いた。
桜がぼーっとかすんで見えな
くなくなった。



湾内の艦船は艦首が水に浸
かりそうになり、艦尾が持ち
上がった、異形の艦を見て、一
瞬呆気にとられ、それが沈ん
だと諦めていた
「涼月」と分った
時、異様な感動
が湾内を包んだ。
そしてそれがな
んとも言えない
歓声となって、拡
がっていった。そ
の後艦はドック
に入ったが、そこ
で着底し、乗組
員は泳いで岸にはい上がった
り、ドックの内側にある垂直の梯
子を伝って上陸をした。まさ
に奇跡の生還であった。

神宝館特別展

「宗像大社刀剣展」のご案内

現在、当大社神宝館で御祭神へ奉納された
刀剣を公開しております。
刀匠の技の結晶を皆様是非ご覧下さい。

- ◆会期 11月25日(日)まで
- ◆時間 午前9時～午後4時30分
- ◆会場 宗像大社神宝館1階展示室
- ◆拝観料 大人 500円
- 大学・高校生 300円
- 中・小学生 200円
- ★15名以上は1名に付100円引

※展示替え作業のため、
平成24年11月26日(月)～28日(水)は、
館内の一部をご覧いただけません。ご了承下さい。
詳しくは宗像大社0940-62-1311へ
お問い合わせ下さい。

第六一五回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



北九州市 八幡西区 豊田 光子

たたかひの最中の軍需も忘れ去り水中バレーに今が青春
年配と思われる作者の「今が青春」が良い。軍需は言葉が足らずの感じなので、(戦時中の軍需工場をもう忘れ水中バレーする今が青春)としてみた。

うきは市 浮羽町 向 則正

節電に灯火管制想い出づうす暗き部屋に家族寄りそふ

この夏の原子力発電の停止で全国で節電が要請されたが、実行している一場面。年配の作者は灯火管制を思い出すが、家族が寄り添って過ごす夜も悪くない。

福津市 若木台 野間 精一

崖を這ふ葛の花の散り初めて粒なす紅道辺に帯なす

色彩感のある美しい歌。二句の字足らずが気になるので(葛の穂花の(葛の花の穂)など)としてはいかが。

福津市 若木台 山崎 公俊

いくじふの天の羽衣ひろげゆく朝空碧し三里松原

気持の良い景だが天の羽衣をひろげるものが何かが不明。羽衣を広げるのが明けてゆく空ならばその比喩と分かるように。鳥などなら名を入れて。

宗像市 土穴 山本 静子

一ひらの雲に残れる夕あかね孔太寺の山青く暮れゆく

刻々と色を変える夕空の、最後の茜色に心を惹かれた作者か。一首に色が二つあると上の句のあかねが際立たないので結句を(暮れゆく刻を)としてみたら。

福津市 中央 池浦千鶴子

味噌汁に韭のみどりをほうりこみ朝より暑き陽は昇りたり

味噌汁の良い匂いがしてきそうな歌。上句・下句が主語のちがう二つの文脈から成るので、三句切れにし(ほうりこみ朝より昇りきて)と文脈を一つに。

宗像市 日の里 大和美由紀

笥より流るる豊かな神水を掬ひて飲めば甘き味する

気持の良い歌だ、阿蘇山麓あたりの湧水を祀った神社などを想像した。豊かな湧き水が神水ならば、きつと口にした作者には福が授けられることだろう。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦

さみしさはさもあらばあれ夢枕小川に流しし女郎花見ゆ

大変調子の良い歌。「日常の寂しさはともかくも、女郎花を川に流した夢を見たよ」というほどの意か。女郎花は思い出の女性の暗喩かもしれない。

宗像市 田久 巻 桔梗

旧悪の吐露をわらへば後輩はおなじにほいが吾にもすと言ふ

(旧悪)を笑ったら、同じ穴の貉だろうと、逆襲された作者。旧悪はたいした悪ではなさそう。結句の吾は字余りでもわれと読みたい。

宗像市 池田 森 龍子

日の暮れて哀へやまぬ暑さの中思ひ浮ばぬ事の多かり

暑さに消耗した作者は頭脳もすこしお疲れ気味らしい。「今年の夏も暑かったね」と肩を叩いてあげたい。四句は(思ひ出だせぬ)ではないだろうか。

福岡市 南区 井田有久衣

デイケアの習字サークル老輩は筆にぎりしめ手本に挑む

デイケアで習字に励む作者の自画像と読んだが、同じサークルの仲間の姿でも良い。(筆を握りしめ)の描写から真剣な様子がありありと見える。

道音詠

台風が家を鳴らして通る午後

なすすべなくて立ちては座る
寂しさは指にはじまる鱗ごと
このしろの皮ぞつくりと剥ぎ

第五八九回

俳句作品集

宗像市 武丸 白土 凌一

柿を見て小鳥と遊ぶ庭のすみ

宗像市 日の里 石松 弘次

糟漬や匂ひ親くも亡母の頭つ

宗像市 日の里 花田いつ枝

幽暗の琴の音さはや神奈備祭

編集後記

食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、「菊花の秋」、神都宗像に秋をつける秋季大祭も終わり、いよいよ菊花展の季節がやってきました。九州一の菊花展、西日本菊花大会が当大社境内にて開催されます▼実は私この菊花展の担当としても奉仕しております。担当と言っても実際に菊の花を栽培するわけではありません。が、実際に菊を育てる愛好家の方と親しくなり、話を伺い、様々な菊花を目にするうちに、菊への愛情が芽生え、大好きな花になりました▼菊と言えば墓前に供える花とのイメージが強い方も多いのではないのでしょうか。私もそうでしたが…ここにくればそんなイメージは払拭されること間違いなし!一見の価値ありです▼九州・山口各県の愛好家たち約二〇〇名が一年かけて丹誠込めて育てた約三千鉢、色取り取りの菊花が並んでおります。是非一度観菊いただき、好きな花リストに菊の花を… (鈴)

発行所 宗像大社社務所・宗像会

住所 千八一一三五〇五

福岡県宗像市田島二二三一

電話 (〇九四〇)六二二二三二(代)

発行人 葦津幹之

編集人 大塚宗延・鈴木祥裕

制作・印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円